



## 【2017年11月20日～11月24日】

### 1. 先週の市場動向

### 【先週の市場の振り返り】

＜株式＞	先々週末 2017/11/17	先週末 2017/11/24	前週比
NYダウ (米国)	23,358.24	23,557.99	0.86%
日経平均株価 (日本)	22,396.80	22,550.85	0.69%
DAX指数 (ドイツ)	12,993.73	13,059.84	0.51%
FTSE指数 (英国)	7,380.68	7,409.64	0.39%
上海総合指数 (中国)	3,382.91	3,353.82	▲0.86%
香港ハンセン指数 (中国)	29,199.04	29,866.32	2.29%
ASX指数 (豪州)	5,957.25	5,982.55	0.42%
＜リート＞	先々週末	先週末	前週比
S&Pグローバルリート指数	182.98	184.32	0.73%
＜債券＞ (利回り) (%)	先々週末	先週末	前週差
米国10年国債	2.344	2.342	▲0.002
日本10年国債	0.036	0.029	▲0.007
ドイツ10年国債	0.361	0.360	▲0.001
英国10年国債	1.294	1.250	▲0.044
＜為替＞	先々週末	先週末	前週比
ドル円	112.10	111.53	▲0.51%
ユーロ円	132.17	133.08	0.69%
ユーロドル	1.1790	1.1933	1.21%
豪ドル円	84.81	84.95	0.17%
＜商品＞	先々週末	先週末	前週比
商品 (CRB指数)	190.39	192.22	0.96%
原油先物価格 (WTI)	56.55	58.95	4.24%

#### ＜株式＞

主要国の株式市場は大半が上昇しました。米国株式市場は、年末商戦への期待が高まり、堅調に推移しました。週間ではNYダウは0.86%上昇し、一時最高値を更新しました。欧州株式市場も堅調でした。独DAX指数は、前週末に独連立協議が決裂しましたが、その後も連立に向けた取り組みが行われていること、経済指標が良好だったこと等を受けて株価は3週間ぶりに反発し、週間では0.51%上昇しました。英国のFTSE指数も上昇しました。日経平均株価は、円高が進んだものの世界的な株高などから上昇し、週間では0.69%上昇しました。中国株式市場では、香港ハンセン指数は金融セクター主導で大きく上昇した一方、上海総合指数は下落しました。

#### ＜債券＞

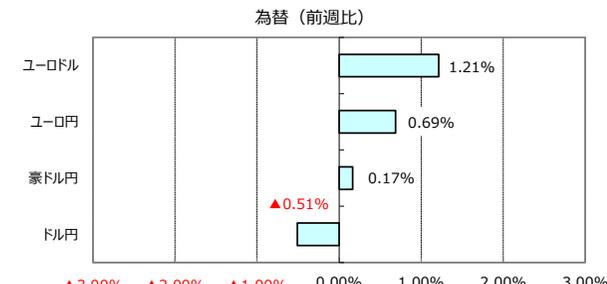
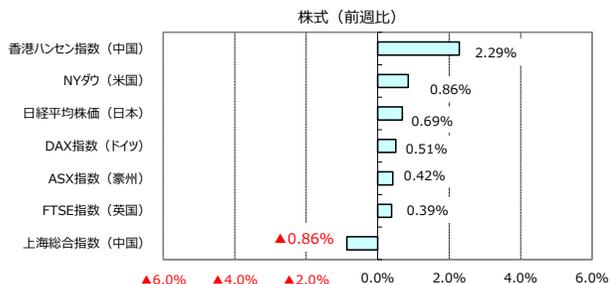
欧米の10年国債利回りはほぼ横ばいながら、若干低下しました。米国の10年国債利回りは、年末商戦が活況を呈するとの見方や株高などを受けて上昇する局面もありましたが、月初に開催された米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事要旨がハト派的だったこともあり、週間では0.002%の低下にとどまりました。ドイツと日本の10年国債利回りも同様で、週間ではほぼ横ばいでした。英国の10年国債利回りは週間では0.044%低下しました。

#### ＜為替＞

円相場は米ドルに対しては円高となりましたが、対ユーロ、豪ドルでは円安となりました。ドル円では米連邦準備制度理事会 (FRB) の姿勢がハト派的との見方が広がり、円が上昇しました。対ユーロでは、ドイツなどユーロ圏経済の堅調さを示す経済指標を受けて、円安となりました。

#### ＜商品＞

原油はOPEC等の協調減産が延長されるとの見方や米週間原油在庫が減少したことなどから、週間では4.24%と大きく上昇し、58.95ドルで引けました。



※利回りの低下は債券価格の上昇を表します。

※ユーロドルのプラス表示はユーロ高・ドル安。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成





【2017年11月20日～11月24日】

## 2. 先週のマーケット・デイリー/ウィークリー

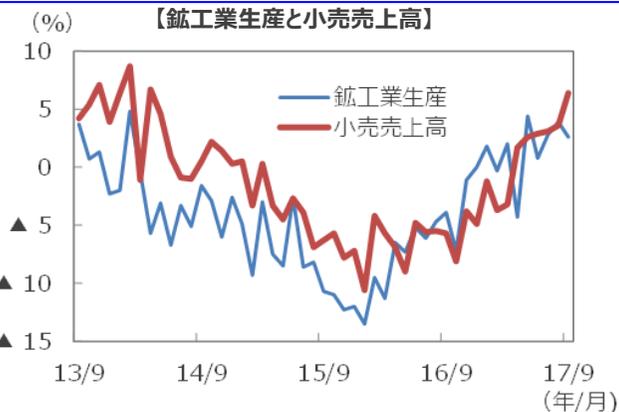
	テーマ	ポイント
11/20 (月)	先週のマーケットの振り返り	2017/11/13～11/17 マーケットの振り返り
☆	Moody'sがインドを格上げ	1. Moody'sがインドを格上げ、モディ首相の改革を評価 2. マーケットは格上げを好感、意外に早かった格上げ 3. 【モディ首相の経済改革によって高成長が続く見込み】モディ政権による経済改革はインドにとって必要であり、成長にはプラスの効果があると思われます。国際通貨基金（IMF）では、インドの実質GDP成長率は、2018年は+7.4%への加速を見込んでいます。
11/20 (月)		
11/21 (火)	鉄鉱石・石炭の価格と豪ドルの動向（2017年11月） 緩やかに下値を切り上げる展開へ	1. 価格は持ち直し、緩やかに下値を切り上げる展開 2. 短期的には価格調整の公算、中期的には中国が需要増を牽引へ 3. 【豪ドルは堅調に推移しよう】やや長い目で見れば、①鉄鉱石や石炭等の資源価格の持ち直しが見込まれる、②豪州の貿易収支が改善しつつある、③金融政策が、日本の緩和姿勢継続に対し、豪州は中立姿勢維持の見通しである等から、豪ドルの対円相場は堅調に推移すると予想されます。
☆	ブラジルの経済・市場動向（2017年11月） 景気回復や相対的な高金利が通貨レアルを下支え	1. 国内経済は堅調、生産も消費も回復基調 2. インフレは低水準、利下げペースは落ち着く見込み 3. 【景気回復や相対的な高金利が通貨レアルを下支え】経済の回復基調に加え、インフレが落ち着いた水準にあることから、政策金利は次回会合で7%まで引き下げられた後、当面は据え置かれると見込まれます。経済の回復と相対的な高金利は、通貨レアルの下支え要因となりそうです。
11/21 (火)		
11/22 (水)	インドの経済・市場動向（2017年11月） 格上げは市場のサポート要因	1. 政府は大型の景気刺激策、国営銀行に資本注入 2. 金融政策は据え置きの見込み、消費者物価はやや上昇 3. 【格上げは市場のサポート要因】市場はインドの格上げを好感しています。過去最高値圏にある株価指数SENSEXは、モディ政権の改革への期待から今後も堅調を維持しそうです。通貨ルピーは、好調な株式市場を背景に底堅い展開が見込まれます。
11/22 (水)		
11/24 (金)	南アフリカの金融政策（2017年11月） 財政見通しの悪化や政治的不透明感からランドは不安定	1. 政策金利は据え置き、据え置きは市場予想の通り 2. 経済見通しを下方修正、物価見通しは上方修正 3. 【ランド安を防ぐために利上げが見込まれる】10月発表の中期財政計画により財政見通しは大幅な下方修正となり、大手格付け機関では格下げ実施の可能性がります。格下げリスクや政治的不透明感から通貨ランドは不安定な動きが続きそうで、通貨防衛のための利上げの可能性もあります。
11/24 (金)		

## ☆先週の市場動向に関連する代表的な「グラフ・図表」

☆11/20 Moody'sがインドを格上げ



☆11/21 ブラジルの経済・市場動向（2017年11月）  
景気回復や相対的な高金利が通貨レアルを下支え



☆ は右の「グラフ・図表」を参照。



【2017年11月20日～11月24日】

### 3. 今週の主な注目材料

日付	米国	日本	欧州	アジア・オセアニア・その他
11/27 (月)	10月新築住宅販売件数	10月企業向けサービス価格指数		
11/28 (火)	9月S&Pコアロジックケース・シラー米住宅価格指数 9月FHFA住宅価格 11月消費者信頼感指数		独12月GfK消費者信頼感 ユーロ圏10月マネーサプライ	ブラジル11月FGVインフレIGPM
11/29 (水)	7-9月期GDP (2次改定値) 10月中古住宅販売成約件数 ページブック	10月小売業販売額 10月小売売上高 10月百貨店・スーパー販売額	ユーロ圏11月景況感 独11月消費者物価指数 英10月マネーサプライ	ブラジル10月純債務対GDP比
11/30 (木)	10月個人所得・消費支出 10月個人消費支出デフレクター☆ 11月シカゴPMI	10月鉱工業生産☆ 10月自動車生産台数 10月住宅着工件数	ユーロ圏10月失業率 ユーロ圏11月消費者物価指数☆	中国11月製造業・非製造業PMI☆
12/1 (金)	11月マークイット製造業PMI (確定値) 11月ISM製造業景況感指数	7-9月期法人企業統計 10月失業率、有効求人倍率 10月家計調査 10月消費者物価指数	ユーロ圏11月マークイット製造業PMI (確定値) 英11月マークイット製造業PMI	中国11月Caixin製造業PMI ブラジル7-9月期GDP ブラジル11月マークイットPMI製造業
☆ 今週の注目点	今後の金融政策を見る上で、10月個人消費支出デフレクターなどが注目されます。	今後の経済動向を見る上で、10月鉱工業生産などが注目されます。	今後の金融政策を見る上で、ユーロ圏11月消費者物価指数などが注目されます。	中国の今後の景気動向を見る上で、中国11月製造業・非製造業PMIなどが注目されます。

※各経済指標・イベントは予定であり、変更されることがあります。

弊社マーケットレポート

検索!!

先週の注目の「マーケット・デイリー」

2017年11月21日 [ブラジルの経済・市場動向 \(2017年11月\) 【デイリー】](#)

2017年11月20日 [Moody'sがインドを格上げ【デイリー】](#)

先週の「マーケット・ウィークリー」

2017年11月20日 [先週のマーケットの振り返り \(2017/11/13-11/17\) 【ウィークリー】](#)

先月の「マーケット・マンスリー」

2017年11月 2日 [先月のマーケットの振り返り \(2017年10月\) 【マンスリー】](#)

先週の注目の「マーケット・キーワード」

2017年11月24日 [『広州モーターショー』は「新エネルギー車」に注目 【キーワード】](#)



【2017年11月20日～11月24日】

## 【重要な注意事項】

### 【投資信託商品についてのご注意（リスク、費用）】

#### ●投資信託に係るリスクについて

投資信託の基準価額は、投資信託に組み入れられる有価証券の値動き等（外貨建資産には為替変動もあります。）の影響により上下します。**基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。

運用の結果として投資信託に生じた**利益および損失は、すべて受益者に帰属**します。したがって、投資信託は**預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく**、一定の投資成果を保証するものでもありません。

#### ●投資信託に係る費用について

ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。

◆直接ご負担いただく費用 … 申込手数料 **上限3.78% (税込)**

… 換金（解約）手数料 **上限1.08% (税込)**

… 信託財産留保額 **上限3.00%**

◆投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用 … 信託報酬 **上限年 3.834% (税込)**

◆その他費用 … 監査費用、有価証券の売買時の手数料、デリバティブ取引等に要する費用（それらにかかる消費税等相当額を含みます。）、および外国における資産の保管等に要する費用等が信託財産から支払われます。また、投資信託によっては成功報酬が定められており当該成功報酬が信託財産から支払われます。投資信託証券を組み入れる場合には、お客さまが間接的に支払う費用として、当該投資信託の資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用等に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、運用の状況により変化するため、あらかじめその上限額、計算方法を具体的に記載できません。

※なお、お客さまにご負担いただく上記費用等の合計額、その上限額および計算方法等は、お客さまの保有期間に応じて異なる等の理由によりあらかじめ具体的に記載することはできません。

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、三井住友アセットマネジメントが運用するすべての投資信託における、それぞれの費用の最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面等を事前に必ずご覧ください。

●投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。

●投資信託は、クローズド期間、国内外の休祭日の取扱い等により、換金等ができないことがありますのでご注意ください。

〔2017年5月31日現在〕

三井住友アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第399号

加入協会：一般社団法人 投資信託協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、これらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。